

# 平成27年度 浄化槽設備士 実地試験解答試案

## 【問題No.1】

(1)

単体装置	沈砂槽
改善効果	未消化繊維等固形物を除去し、パイプの目詰まりや、ポンプの故障発生を防止できる。

単体装置	流量調整槽
改善効果	汚水の流入量を調整する事ができ負荷を平準化できる。

(2)

- ①沈殿槽の底部がホッパー型の場合においては、当該槽の水面の面積は、水面の面積 1m<sup>2</sup> 当たりの日平均汚水量(以下「水面積負荷」という。)が 8m<sup>3</sup> 以下となるようにすること。
- ②有効水深は、1m以上とすること。ただし、沈殿槽の底部がホッパー型の場合においては、ホッパー部の高さの1/2に相当する長さを当該有効水深に含めないものとする。
- ③沈殿槽の底部がホッパー型の場合においては、当該槽の平面の形状を円形又は正多角形(正三角形を除く。)とすること。
- ④ホッパーは、勾配を水平面に対し60度以上とし、底部を汚泥の有効な引き抜きをすることができる構造とすること。

・・・・・・・・・・等

## 【問題No.2】

(1)

- ①浄化槽を設置するスペースが確保できるか。
- ②流入管渠、放流管渠の勾配や、放流先が確保できるか。
- ③配管路、槽の設置場所の地上、地下に障害物がないか。

・・・・・・・・・・等

本解答は、九州建設専門学院の「解答試案」です。解答内容は  
予告なしに変更になることがあります。ご了承下さい。



(2)

- ①濾材、接触材に変形、破損が生じていないか、その押さえがずれていないか点検する。
- ②空気用配管、散気装置が外れていないか点検する。
- ③逆洗管が所定の位置に納まっているか点検する。
- ④消毒筒、ポンプなどが所定の位置に納まっているか点検する。
- ⑤槽本体が水平に設置されているか点検する。
- ⑥槽内部の防錆塗装がはがれていないか点検する。
- ⑦槽本体、内部の隔壁、消毒槽に破損、変形がないか点検する。
- ⑧槽の内部に異物が落ちていないか点検する。

・・・・・・・・等

**【問題No.3】**

施工体験記述(品質管理、安全管理)につき省略します。